

日野市立教育センター一報

# 教育センターだより

第28号 平成24年11月29日発行



平成24年8月27日  
夏季若手教員育成研修(2・3年次)

## 日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分  
～午後5時15分

## ひのっ子の成長を支える教育センターの諸事業



日野市教育委員会 教育部

ICT活用教育推進室長兼統括指導主事

島川 浩一

ひらこう世界へ  
のびようともに  
つくろう夢を  
こえよう自分を

この教育目標の実現に向けて、教育委員会では学校と力を合わせて今年も各事業を推進しています。その中で教育センターは、教員、子ども、保護者等を支える諸事業を展開しています

調査研究部においては、ふるさと日野に誇りと愛着をもつひのっ子を育成する「郷土教育」、ひのっ子の学習意欲を高める理科授業を構築するために「理科教育」の研究を推進しています。また、国語科、算数・数学科における魅力ある授業づくりを目指し、よりよい授業モデルの創造に向けた研究も進めています。ひのっ子の学力向上のために、熱心に研修、協議が重ねられています。

研修部では、ひのっ子を育てる若手教員（1～3年次）を育成するために、授業指導を行っています。教員の大先輩である所員から個別に受ける指導は、明日からの授業改善（創造）につながる助言として若手教員を勇気付けています。

相談部では、不登校やいじめ、学校生活における精神的悩み、人間関係でのストレス等の課題に苦しむひのっ子、そして保護者、地域住民を支える相談事業を進めています。不登校といじめは、対応が必要な喫緊の問題です。これまで多くの学校で発生しており、今後もどの学校でも起こりうる問題として、未然防止、早期発見・早期対応に努めることが肝要です。両問題とも様々な対応をしていますが、教育相談の充実は特に大切です。いじめ相談である「子どもこころの電話相談」も含めて一層の周知を図ってまいります。また、登校することが困難なひのっ子たちが「安心して過ごせる学びの場」として、教育センター内の「わかば教室」で元気に生活しています。一人一人の状況に応じた支援を受け、学校復帰、社会的自立に向けて頑張るひのっ子の姿が見られます。

市制施行50周年となる来年、教育センターも開設10年を迎えます。すべてのひのっ子が教育目標を具現化できるよう諸事業の一層の充実を祈念し、あいさついたします。

# I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「理科教育推進の研究」「郷土教育推進の研究」の推進、日野市教育委員会事業「ひのっ子教育21開発委員会研究」の支援を関係機関のご協力の下、進めています。以下、11月現在の進捗状況や成果をお知らせします。

## 1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

### —魅力ある理科授業の展開を目指して—

#### （1）理科の授業づくりは夏の実技研修で

本年度も夏季休業日中に3日間、理科実技研修会を実施しました。8月1日の富士電機㈱での「電気を中心とした研修会」と、8月21日の多摩動物公園での「昆虫スキルアップ研修」は、日野市教育広報「ひのっ子きょういく」に掲載されましたので、7月27日に日野第四小学校で実施した、日野市のコア・サイエンス・ティーチャー（CST）3人が講師となった研修会を紹介します。

##### ①午前：理科の観察・実験器具の扱い方

今年度は初任者研修の課題別研修（小学校）を兼ねての研修会になりました。授業にも触れながら顕微鏡などの観察用具、「燃烧」「電気」などの実験器具や「水溶液の性質」に関連した薬品の扱い方など、理科実験の基礎・基本を研修しました。

参加者から「器具をどのように使ったらよいか、扱い方から注意点まで、詳しく教えていただいととても勉強になった。」などの意見が寄せられました。

##### ②午後：2学期にすぐに役立つ理科の観察・実験

地学領域を中心に、3年生「ひなたとひかげ」、5年生「流れる水のはたらき」、6年生「月と太陽」を、4年生は「空気と水」を取り上げました。研修では、教科書に載っている観察や実験ができるよう、指導事例の紹介や実験の体験をしました。

#### （2）小・中学校連携教育は理科授業の交流から

小・中学校連携教育による指導の接続の円滑化を目的に、小学校教育研究会理科部会と中学校教育研究会理科部会合同の授業研究が7月と9月に行われました。

7月4日(水)、平山小学校3年1組で5校時に林悦子先生による「風やゴムのはたらき」の研究授業が行われました。「児童が予想を立て、実験、クラス全員の実験結果を表に示し、考察や気付いたことをもとに根拠を明確にして発表する」という授業でした。中学校の教員には児童が一生懸命帆掛け車を走らそうと汗を流しはきはきと発表する姿に、中学生と比較して児童の表情に表れる「驚き」と「喜び」を新鮮に感じたようです。協議会の折に、授業者より「風を受ける帆は各児童に創意工夫させた自作の『帆掛け車』で、学ぶ楽しさの実感と自ら学ぶ意欲の向上・興味・関心をより一層高めさせて積極的な考察の発表を導くようにしました」との発表があり、教材や授業の組み立てに工夫が必要であることを中学の先生方は感じたようです。



9月12日、日野第二中学校3年2組で5校時に宮田康宏先生による「化学変化とイオン」の単元で、題材名「電池のトラブルシューティング」の研究授業でした。この授業の大きな特色、創意工夫は「電池の電流が流れるしくみ」を学んだ生徒に「使えない電池の原因と解決法」を考えさせ、発表させる点でした。協議会では小学校の多くの先生が「思考力・表現力の基盤として、正しい知識や言葉の理解が必要と感じた」「小学校の実験や観察を通してこれまで以上に科学的な見方や考え方を育成する大切さを認識した」との意見が出されました。

今年度も小・中学校各一回の授業でしたが、事後アンケートには「百聞は一見にしかず」という感想もあり、小・中学校の距離を縮めることができた価値ある合同の授業研究になりました。

## 2 郷土教育推進の研究（郷土教育推進研究委員会）

### ふるさと教育係

#### （1）郷土教育の普及・啓発とフィールドワーク

郷土教育推進研究委員会では、「ふるさと日野」に誇りと愛着をもった「ひのっ子」を育成するため、成果の普及・啓発に努めています。その一環として、毎年夏期休業中に、教師自ら日野のよさを理解し、教材化の視点を探り、教材化の方法を学ぶ一日研修会を開催しています。今年度は7月26日に「平山地区（旧平山村）の歴史・産業・自然を訪ねて」のテーマで、フィールドワークと平山小学校の施設をお借りして、事例発表・演習・まとめ等の研修会を実施しました。

#### （2）フィールドワークで新たな教材の発掘

##### ①平山にゴルフ場があった（平山ゴルフ場）

平山六丁目から平山城址公園にかけて、かつてゴルフ場がありました。大正14年にオープンした「武蔵野カンツリクラブ平山コース」です。当時は、東京には世田谷区駒沢の「東京カンツリクラブ」と平山の2ヶ所しかなく、皇族、会社の重役、外交官、外国人等の人々がやってきました。平山の子供もたちは、小遣い稼ぎのためキャディーをしました。キャディー代は、1日20銭ほどだったそうです。今、宗印寺裏手の山には、クラブハウスの基礎が残っています。その少し下に、ゴルフ場開設と経営に尽力した「杉山又吉君の碑」が立っています。昭和13年に閉鎖されましたが、その芝生は戦時中に陸軍の立川飛行場で使われました。



杉山又吉君の碑

##### ②平山にディズニーランドがあった（鮫陵源）

平山城址公園駅の北側、現在の公社平山住宅がある所に「鮫陵源」がありました。鮫陵源は、昭和11年に貿易商鮫島亀之助が開園した遊園地で、料亭、養殖池、釣堀もありました。滝合駐在所のところに赤い三角屋根のモダンな南門がありました。ひらやま保育園の東側には弁天池と太鼓橋がありました。今でも弁天池跡と桜並木が残っています。料亭の庭園も見られます。子ども達の遠足先にもなりましたが、戦争が激しくなり昭和18年に経営中止となりました。その後、施設は陸軍が使うようになりました。



弁天池跡

##### ③平山に日本一の陸稲があった（東京平山）

平山村（七生村）の林丈太郎は、干ばつに強く、病虫害に強く、食味もよく、たくさん収穫できる陸稲を開発しました。当時の日本はお米や食料が不足していたので、またたく間に全国に普及しました。この陸稲が、明治44年に誕生した「丈太陸稲」なのです。その後、さらに改良され「東京平山」と命名されました。食糧不足が解消されると陸稲は栽培されなくなりました。昭和28年、林丈太郎の功績をたたえる墓碑が宗印寺に立てられました。同時に林丈太郎と米どころ平山をたたえる「平山音頭」が発表されました。



林丈太郎の墓碑

平成15年、その種籾を平山の農業指導者である小林和男さんが発見し、平山小学校で復活させました。平山小学校の子ども達は、毎年、小林さんの指導の下「平山陸稲」を栽培し、日野の伝統を継承しています。

#### ※参考文献

- |         |                   |         |                       |
|---------|-------------------|---------|-----------------------|
| ・平成 4年  | 「ひらやま歴史マップ」       | ひらやま探検隊 | 日野市生活課                |
| ・平成 6年  | 「平山をさぐる 鮫陵源とその時代」 | ひらやま探検隊 | 日野市生活課                |
| ・平成 15年 | 「副読本 ひらやま」        |         | 日野市立平山小学校             |
| ・平成 23年 | 「郷土日野」指導事例 第6集    |         | 日野市立教育センター郷土教育推進研究委員会 |

### 3 ひのっ子教育21開発委員会研究

#### 基礎調査研究係

ひのっ子教育21開発委員会では、日野市内の小・中学校から、17名（小学校13名、中学校4名）の開発委員が集まり、国語科（国語科分科会）・算数・数学科（算数・数学科分科会）における魅力ある授業づくりを進めています。各分科会に分かれて、講師の先生方の指導の下、日野市教育委員会が目指す「魅力ある授業づくりプロジェクト」の実現に向けて、一年間、基礎調査研究を深めています。以下、国語分科会と算数・数学科分科会の実践報告を記載します。

#### <国語分科会>

##### 研究テーマ「主体的な読みを深める指導法の工夫」

##### ～文学的教材における確かな読みをめざして～

国語分科会では、日野市教育委員会のプロジェクトの主旨を受けて、分科会で話し合い、研究主題を「主体的な読みを深める指導法の工夫」とし、副主題を児童・生徒の学力テストの実態から、「文学的教材における確かな読みをめざして」に決めました。低・中学年、高学年、中学校分科会の3つの分科会に分かれて、授業実践研究を積み上げることにしました。

#### (1) 研究に迫るための手立てとして、次のことを授業実践します

- ①本単元の学習で、単元を貫く言語活動を行う
- ②読み深めるための指導法の基礎・基本を明確にする
- ③各学年の発達段階に応じたオリジナルな学習指導を工夫する
- ④目的意識や相手意識をもち、主体的に学習する



#### (2) 国語分科会の活動経過

- 4月26日 今年度の研究推進の方針説明。  
分科会でテーマ、リーダー等決める。
- 5月29日 学力調査の分析、分科会テーマの決定、研究授業者の決定。
- 6月28日 講演「言語活動の充実をめざす魅力ある授業づくり」  
講師 文部科学省教科調査官 水戸部修治先生
- 7月 9日 提案授業3年「あらしの夜に」 授業者 日野市立旭が丘小学校教諭  
講師 多摩市教育委員会指導主事 三田暢夫先生
- 8月20日 低・中学年分科会、高学年分科会の教材研究
- 9月20日 研究授業中学3年「高瀬舟」 授業者 日野市立七生中学校教諭  
講師 東京都教職員研修センター統括指導主事 中嶋富美代先生
- 10月18日 研究授業2年「お手紙」 授業者 日野市立日野第二小学校教諭  
講師 八王子市立由木中央小学校・校長 飯田薫先生
- 11月15日 研究授業5年「大造じいさんとがん」 授業者 日野市立滝合小学校教諭  
講師 東京都教育庁指導部指導主事 富永大優先生

## <算数・数学科分科会>

### 研究テーマ「ひのっ子の思考力を高める算数・数学科の授業づくり」

算数・数学科分科会では、小学校7名、中学校2名の開発委員が集まり、ひのっ子の思考力を高めるための算数・数学科の授業作りに取り組み、授業を中心とした実践的な研究に取り組んできました。中学校1グループ、小学校を2グループに分け、それぞれが研究テーマに迫るための研究授業を実践しました。教え込みの授業から、児童・生徒が主体的に学習活動する授業へと変えていくことを目指しています。各グループでは、研究テーマに迫るために、①児童・生徒の問いを引き出す課題提示の工夫、②豊かな表現力を育てる工夫、③思考力を高めるコミュニケーション活動の工夫について提案し、授業研究の中で検証してきました。研究授業には、講師の先生を招聘しご指導をいただいております。経過としては、以下の通りです。

- 4月26日 今年度の研究推進の方針説明  
5月10日 講演「魅力ある算数の授業づくり」  
講師 鎌倉女子大学特任教授 廣田敬一先生  
6月15日 日野第三小学校で模範授業 「思考力を高める算数・数学科の授業のあり方」  
講師 常葉学園大学教授 黒澤俊二先生  
7月 9日 各ブロックごとに二学期の研究授業について研究・協議  
9月 6日 研究授業 中学校ブロック 中学1年「方程式の導入」  
授業者 日野第二中学校教諭  
講師 東京学芸大学教授 中村光一先生  
10月16日 研究授業 小学校Bブロック 6年「拡大図・縮図（導入）」  
授業者 日野第六小学校教諭  
講師 鎌倉女子大学特任教授 廣田敬一先生  
11月15日 研究授業 小学校Aブロック 3年「少数の表し方」  
授業者 南平小学校教諭  
講師 文部科学省教科調査官 笠井健一先生



今後の予定としては、2月7日（木）日野市立日野第三小学校で、ひのっ子教育21開発委員会の研究授業と報告会・発表会があります。国語科分科会（講師 青山学院大学教授 小森茂先生）算数・数学科分科会（講師 常葉学園大学教授 黒澤俊二先生）の各分科会での発表となります。

また、本年度の開発委員会は、国語科、算数・数学科の授業実践事例をまとめ、日野市立小・中学校の教員のみなさまにお渡しすることを目指しています。

## II 研修部

### 教職員研修係

教育センターは、日野市教育委員会学校課が計画した日野市立幼稚園、小・中学校教職員の研修事業を進める際に必要な業務を行っています。その主なものを紹介します。

#### (1) 若手教員育成研修(1・2・3年次)の授業観察及び指導

若手教員育成研修(1・2年・3年次)の授業観察及び指導を行っています。1年次教員は、正確に指導案が書けているか、授業が計画通り実施されているか、教員と児童・生徒との人間関係はどうか等の観点で授業を観察しています。指導員は、「よかった点」や「改善点」を示し、次の授業に向けての課題点を示し、指導しています。



2年次教員については、「指導観」を明らかにし、授業の構想を立て、学習指導案を作成して授業を臨むこと、また、授業後には授業評価を行い、改善策を講じていくように具体的に指導しています。3年次は、校内研究等に沿って授業を行い、課題解決的、実践的授業を行なうようにアドバイスしています。

#### 2年次教員を指導する指導員

#### (2) 夏季全体研修会

7月24日、日野煉瓦ホール(大ホール)で、日野市教育委員会夏季教員研修の全体研修会が開かれました。この研修は、「教育のまち、日野」を支える教員が集う熱意あふれる全体研修会です。今年度のテーマは、「授業のユニバーサルデザイン」です。授業に特別支援教育をどのように取り入れていくかについて、日野第三小学校の4年生の協力を得て、国語科におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れて、筑波大学附属小学校の桂聖先生に授業を実演していただきました。また、明星大学人文学部准教授の小貫悟先生にユニバーサルデザインを取り入れた授業から見えてくるもの、授業のユニバーサルデザインとは何かについて講演がありました。参加した教員の声として「具体的な授業づくりの在り方を通して魅力ある授業づくりのヒントをたくさん実感できました。」という感想がありました。また、教育センターは、全体研修会の開催に向け、日野市教育委員会と協力して、立看板を準備、受付名簿を作成、当日の受付をして、参加者の状況把握等を行いました。

#### (3) 若手教員育成研修(2年次・3年次)

8月27日日野第一中学校を会場にして、2年次が午前の半日、3年次が午後の半日と、半日単位で開催されました。2年次・3年次は、10グループに分かれ、それぞれ一学期に実践した事例を発表し、学習展開の方法や教材教具の工夫等についてグループ協議を行いました。センター所員は、午前・午後の一日、グループ協議に参加し、発表事例への指導法や児童生徒理解の悩み等について指導助言を行いました。それぞれの課題をもって2学期に臨むように励ましました。



グループ協議の指導助言

#### (4) 教育課題研修会

夏季休業中に実施された、人権教育、外国語活動、特別支援教育・理科実技・昆虫スキルアップ・郷土教育・教育相談の各研修会の業務も教育センター研修部が行っています。各学校からの受講申し込みをまとめ、参加人数の把握や、受付名簿の作成、参加状況の把握等を行いました。

### Ⅲ 相談部

日野市立教育センターの相談部には、一般教育相談係と適応指導（わかば）教室運営などを行う学校生活相談係が設けられていて、教育相談事業を行っています。

#### 1 一般教育相談

##### 一般教育相談係

### — 確実な適応を目指した教育相談を —

#### 前期（4月～9月）の活動

##### （1）教育相談 合計1,231件

教育相談室には電話相談用の電話回線と、子どもこころの電話相談専用の電話回線があります。

なお、これまでの継続相談（予約・来室）は、昨年度からの継続44ケースと今年度4月から9月までに受け付け付けた17ケースです。合計61ケース中の7ケースについて、相談の問題が解決したり、より

専門的な機関に引き継いだことで終結しています。

電話相談	90件
子どもこころの電話相談	9件
継続相談	延べ1,132件

##### （2）研修会等及び他機関との連携 合計28回



夏季休業中に教員を対象にして10年経験者研修（写真）と教育相談研修を行いました。

どちらの研修も、教育相談室のスタッフ全員が講師となり、参加者のアンケート等を参考にして研修内容を組み立てました。

ケース連絡会、カンファレンス	6回
研修会等への参加、視察	18回
研修会の実施、講師の派遣	4回

他機関との連携では、ケース連絡会や教育相談研修会の連携機関紹介に、子ども家庭支援センターや発達支援室職員の参加を得ることができ、主に子ども家庭支援センターと発達支援室との交流を図りました。また、両施設には、新規採用相談員の視察の折に、グループ指導やケース会議にも参加させていただき、相互の相談・支援体制を深めることができました。

##### （3）学校への訪問 21校（小学校15校、中学校6校）

教育相談室の学校訪問は、初めての取り組みでした。今年度、訪問できなかった学校は、来年度訪問する予定です。

相談員からは、「直接、顔と顔を合わせて話すことができ、よかった。学校の生の様子を知る事ができた。電話連絡

だけではわからない学校の雰囲気を感じる事ができた。学校のニーズと相談室ができることについて、忌憚なく意見交換ができた。子どもが普段過ごしている学校のイメージがつかみやすくなり、相談を進める上で役に立った。」などの感想があり、大変貴重な機会となりました。

教育相談室訪問	9校
適応指導教室との合同訪問	12校

## 2 学校生活相談

学校生活相談係・わかば教室

### —不登校児童・生徒と適応指導教室「わかば教室」—

学校生活相談係は、心因的要因やさまざまな状況によって発生した不登校や登校しぶりの子ども達を適応指導教室「わかば教室」で受け入れ、生活や学習の支援及び指導を行なっています。

児童・生徒の学校生活は、安全で、健康的で、明るく落ち着いた雰囲気です。一人一人が意欲的に生活や学習に取り組めることが大切です。「学校生活相談係」は、その達成に向けた支援が使命だと考えています。しかし、現在の学校生活における子ども達の課題はさまざまです。その複雑な課題に対して、学校と連携し、また保護者・関係機関とも関係を密にし、改善を図っています。

心のケア・学力向上・体力増進・社会性の育成等を図るため、一人ひとりに対応したきめ細やかな支援をしています。相談活動を充実させ、楽しい行事を行なう等、人間関係を深め、実践力を培い、児童・生徒の活力向上を図り、学校復帰を目指した活動に取り組んでいます。

#### (1) 学校との連携

「わかば教室」では、市内各小中学校と連携し、児童・生徒の生活改善と学校復帰に取り組んでいます。そのために各学期に「適応指導教室連絡会」を設け、管理職の先生や担任の先生との話し合いを進める中で、指導方法を決めたり改善したりしています。また年間2回、市内の全小中学校を一般教育相談室及び登校支援コーディネータと連携し訪問しています。

#### (2) 「わかば教室」の行事について

「わかば教室」では、子どもたちの社会性や集団適応能力の育成のために、季節ごとに様々な行事を行なっています。遠足・お茶会・図書館訪問・ボランティア活動・社会科見学・音楽会、更には毎学期の誕生日会・収穫祭(調理実習)・スポーツ大会など、子どもたちの自主性を尊重しながらミーティングをして、行事の計画・実施を進めています。



#### (3) 適応指導教室「わかば教室」通級の状況

平成23年度	5月	1日	小学生	6人	中学生	15人	合計	21人
	10月	1日	小学生	7人	中学生	30人		37人
	3月	25日	小学生	8人	中学生	38人		46人
平成24年度	5月	1日	小学生	3人	中学生	25人		28人
	10月	1日	小学生	5人	中学生	33人		38人

日野市における不登校児童・生徒数は、毎年増加しています。その中であって、わかば教室から学校に復帰し、元気に通学している児童・生徒がいます。また、高校へ進学した生徒も殆どの子が元気に通学しています。学期・学年の変わり目は学校に復帰できる大きな機会です。小さな変容を大切に、生きる力を育み、不登校改善、更に学校復帰へとつながるよう保護者・学校や関係諸機関と連携を図り、新たな不登校児童・生徒の発生も防ぐ努力を続けています。

# 教育資料・広報係より

## 教育センター・Webサイトの紹介

<http://www.hino-ky.ed.jp/center/>

教育センターでは、学校へ必要な情報を随時提供できる“教育情報センター”としての機能の充実を進めています。

### 1 センター調査研究事業の成果の紹介

当センターでは、日野市内小・中学校の教育の充実のために調査研究事業を推進していますが、その成果をwebサイト上の同サイト上のPDFファイルで見ることができます。

また、ひのっ子郷土教育研究（郷土教育推進研究委員会）で発行された「郷土日野指導事例」（第1～7集）、関連資料集も同様にPDFファイルで見ることができます。

### 2 市内小・中学校の校内研究紀要の概要の紹介

日野市内の公立小・中学校においては、教員の実践的な指導力を高めるために校内研究を進めていますが、当センターでは、各校の昨年度の成果を概要にして紹介しています。また、教員や教育研究者の実践的な研究に役立つために「平成23年度 日野市教育委員会研究奨励校」については、各校の協力によりwebサイト上のPDFファイルにダウンロードによって提供しています。



## 新しく購入した本の紹介

- |                                   |                         |         |
|-----------------------------------|-------------------------|---------|
| ・怒ろう                              | パット・パルマー著               | 径書房     |
| ・泣こう                              | パット・パルマー著               | 径書房     |
| ・自分を好きになる本 NEWEDITION             | パット・パルマー著               | 径書房     |
| ・ADHDのある子のやる気を引き出すペアレントトレーニング     | ヴィンセント・J. モナストラ著        | 明石書店    |
| ・イラスト版 気持ちの伝え方                    | 高取しづか著・JAMネットワーク        | 合同出版    |
| ・「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践          | 安部崇慶編著中村哲編著             | 風間書房    |
| ・河原の石のしらべ方 (10冊)                  | 「多摩川の石」編集委員会著           | 地学団体研究会 |
| ・日本の地形 4 関東・伊豆小笠原                 | 貝塚爽平〔ほか〕編               | 東京大学出版会 |
| ・評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校  | 国立教育政策研究所<br>教育課程研究センター | 教育出版    |
| ・評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校  | 国立教育政策研究所<br>教育課程研究センター | 教育出版    |
| ・国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育     |                         |         |
| ・国語、社会、数学、理科、音楽、美術、技術・家庭、保健体育、外国語 |                         |         |

○本センター内教育図書資料室でご覧いただけます。また、市内教職員につきましては貸出いたします。電話、または校務支援メールでお申し込みください。交換便でお送りします。